



2010 年生物多様性指標および 2010 年以降の指標開発に関する国際的な 専門家によるワークショップ

UNEP World Conservation Monitoring Centre (UNEP-WCMC) が開催するワークショップ

Convention on Biological Diversity (SCBD) の事務局と連携

欧州委員会 (EC)、UK Joint Nature Conservation Committee (JNCC)、および 国際連合環境計画 (UNEP) の資金援助により、UK Department for Environment, Food and Rural Affairs (Defra) が主催

Innovation Centre, Reading、グレート・ブリテンおよび北アイルランド連合王国

2009 年 7 月 6 ~ 8 日

ワークショップの概要

ワークショップ支援機関:



1. はじめに

生物多様性条約 (CBD) 締結国は 2010 年に地球規模での目標達成度を査察し、新規目標、2010 年以降の戦略計画、および関連目標を開発します。2010 年目標の進捗度は指標枠組みに準じて監視され、政策決定者および社会がその達成度を評価し、適切な対応策を確認できる範囲は、各指標が提供する情報に大きく依存します。

2009 年 7 月、生物多様性に関する条約の事務局 (SCBD) と UNEP World Conservation Monitoring Centre は、2010 年生物多様性指標の使用と有効性を査察し、2010 年以降の目標と指標開発の意味合いを検討する会議を共同開催しました。会議は UK Department for Environment, Food and Rural Affairs (Defra) が主催し、国際連合環境計画 (UNEP)、欧州委員会 (EC)、および UK Joint Nature Conservation Committee (JNCC) の追加資金援助を受けました。ワークショップには、政府指定の専門家、生物多様性関連会議、国連機関、学術研究機関、その他の関連国際組織、政府間および非政府組織の代表者が集結しました。これが会議の概要です。

2. 2010 年生物多様性指標プロセスからの主な教訓

以下は、初日の作業部会協議後のワークショップで確認された主な教訓をまとめたものです。大まかに、枠組みに関する教訓、指標自体に関する教訓、コミュニケーションに関する教訓の 3 つのカテゴリに分類できます。

A. 枠組みのロジックおよびコンテンツ

- a. さまざまなスケールでの実装を可能にする柔軟性のある枠組みにより、政策導入が容易になり、枠組み内での詳細指標の開発支援が促進されました。
- b. 枠組みは包括的なもので、他の枠組み (DPSIR など) にマッピングできますが、指標を組み合わせて理路整然としたストーリーに統合する上で問題がありました。
- c. 枠組みは主に CBD の優先度に沿って構築されていますが、他のセクター/MEA プロセスとの関連が不明確であるため、CBD を超えて理解を得たり、使用する上で妨げとなっています。
- d. CBD ターゲットと目標および指標枠組みの同時開発により、意図に反して中断しました。
- e. 生物多様性と枠組みの複雑さにより、さまざまな対象者とのコミュニケーション面で問題が継続しています。

- f. 現在の指標セットは、遺伝資源、生態系特性、生態系サービス、持続可能な利用、人類の福祉、ABS、固有のローカル知識、さらに広範囲に言えば脅威と対応の両方など、多くの領域において不完全です。

B. 指標開発

- a. 科学的な厳格さと指標の結果をさまざまな対象者に伝えることには相反する関係があります。ただし、どちらも必要です。
- b. 一部の指標は適切に開発されていますが、開発途上のものもあります。
- c. 指標の基盤となるデータの代表性と適格性を透過的に文書化し、その地理的/分類的/一時的な範囲を改善する必要があります。
- d. 変化の重要性と目標までの距離を評価する方法は開発中です。
- e. 指標の科学的な厳格さを評価する明確なプロセスまたは基準はありません。

C. コミュニケーション

- a. 結果に集中することで集中力は高まりましたが、明確な目標と意識向上がないことが一般大衆の関心を喚起する上での障害となっています。
- b. これまでのコミュニケーションはその場しのぎの、ご都合主義的なもので、指標から得られる教訓をシステムティックに伝える努力よりも報告に重点が置かれています。「不都合なニュース」を伝えるという特別に大事な課題があります。
- c. 生物多様性はさまざまなセクターのさまざまな物を意味し、各指標からのメッセージとメッセージセット全体としてはこの点は考慮されません。

3. 2010 年以降の指標に対する結論および推奨事項

2010 年以降の指標の選択は、CBD が採択する目標によって異なります。ただし、これらの目標は測定可能である必要があり、進捗を監視する適切な指標を開発および提供する科学的な能力次第ということになります。したがって、目標および指標の開発は反復プロセスによって連携して実施する必要があります。

A. 2010 年以降の指標に対する主な推奨事項

ワークショップで作成された推奨事項の中で最も重要と思われるものは、以下のとおりです。

- a. メインの目標とサブ目標に明確にリンクされ、より特定のサブ指標によって強調される広範囲の見出し指標の小セット (10-15) は、キーとなる筋書きと明確な政策関連メッセージによって指標セットを伝えるために維持管理/開発すると同時に、国別/地域別ニーズを満たす柔軟性のある枠組みを維持する必要があります。
- b. 地球規模での指標の現在の枠組みは、変更して以下の 4 つの「分野」に簡素化する必要があります。生物多様性に対する脅威、生物多様性の状況、生態系サービス、政策対応。必要に応じて、既存の指標は新規枠組みで再配列し、継続性を維持およびその利用を拡大する必要があります。科学的な基盤および前提条件を含め、分野と指標および目標間の関係は明確に説明し、文書化する必要があります。
- c. 生物多様性に対する脅威、多様性の状況、生態系の範囲および条件、生態系サービス、政策対応についての追加評価基準を開発し、2010 年以降の目標の進捗を監視するより完全で柔軟性のある指標セットを提供し、アクションおよび生物多様性の結果を人類への福祉に明確にリンクする必要があります。
- d. 枠組み適用、指標開発、データ収集、およびデータ管理の国別能力をさらに開発および適切に提供し、各国の一般参加型で、持続可能で、統合的な方法で指標を開発、監視、および伝達する能力を強化し、全レベルでの MEA など、その他のプロセスとリンクする必要があります。
- e. 2010 年以降の目標と指標の伝達戦略の開発を優先し、政策論を通知し、指標からすべてのセクターへのメッセージを効果的に伝える必要があります (特に、人類の福祉関連ストーリーの伝達、チャンピオンの識別、定期的な報告プロセスの促進など)。
- f. 2010 年以降の指標開発に対する柔軟性があり包括的なプロセス/パートナーシップを維持および適切に提供し、経験の共有および能力開発など、全レベルでの開発、特性管理、実装、およびコミュニケーションにおける協働を拡大する必要があります。

B. 追加推奨事項およびアクション ポイント

以下の追加推奨事項は、目標、枠組み、指標、およびプロセスに関連するものです。

- a. 2010 年以降の目標では、生物多様性、生態系サービス、人類の福祉、それらの間の関係を認識し、効果的にコミュニケーションを取り、その相互依存関係に対する理解を向上させる必要があります。
- b. 目標とする枠組みには、生物多様性の状況改善に必要な十分な期間と同時に、政策関連に必要なより迅速な報告を満たす中間マイルストーンを組み込む必要があります。
- c. 目標は変化率ではなくレベルまたは変化に関して策定し (損失速度を下げるのではなく、レベルの維持および回復など)、すべての指標の報告と伝達を容易にする必要があります。
- d. 意味のある指標を開発するためには目標設定を考慮する必要がありますが、データの利用可能性、基準、およびスケールによって制約されるべきではありません。
- e. 指標開発のプロセスは、明確で信頼できる指標セットを開発できる利用可能な最善の科学的プラクティスに従い、さらに各指標には明確に文書化され、同じように見直され、公開された方法があり、基盤となるデータ、データ品質管理にアクセスでき、初期テストおよび結果の定期的な独自の見直しに従って、意味があり、科学的に信頼できる指標結果を得る必要があります。
- f. 既存の指標の中で、データ収集の見込がなく、継続して重要性/関連性が低いものは削除し、制約のある財政面および人事面でのリソース使用にフォーカスする必要があります。
- g. 利用可能で最善かつ確立された情報メソッド、ネットワーク、およびデータ セットを使用して、MEA 間における指標利用の相乗効果を追求し、報告プロセスを合理化して効率性およびコスト効果を上げる必要があります。
- h. たとえば、特に生物多様性が豊富な地域での現場でのデータ収集 (および能力開発) の財政支援の追加、地球規模での協調的な生物多様性監視戦略などによる、既存の指標 (特に、生物多様性状況指標) の分類、生態系群、および地理範囲の拡大を優先し、生物多様性の状況、生物多様性に対する脅威、取るべきアクションに対するより頑強で、信頼性があり、代表的な評価方法を提供する必要があります。
- i. 「生物多様性に対する脅威」という分野内の指標を拡大し、可能な場合はすでに収集したデータ (世界銀行、気候変動など) を利用して、適用するまたは生物多様性、生態系サービス、人類の福祉に関連する追加の直接および間接的な推進力を含める必要があります。そのような脅威指標を適確な生物多様性指標測定に密接にリンクし、脅威を軽減するためのアクションが生物多様性の変化にどのように影響するかを政策決定者に明確にする必要があります。

- j. 各指標は、たとえば、機能グループ、分類グループ、生態系群、および地理エリアに分解し、アクションに対する推移と優先度を意味のあるスケールで識別できるようにする必要があります。
- k. 最初は、(できる限り安定性に対するニーズを考慮した) 適切な間隔で指標セットを見直す、広範囲に渡るがコスト効率の良いプロセス (単独入力など) を導入し、新規ニーズと経験から得た教訓への適合を可能にし、目的に合う指標を維持する必要があります。

4. 次のステップ

ワークショップの考慮事項と決定事項の完全レポートは、9 月初旬に利用可能で (www.cbd.int/doc/?meeting=EMIND-02 を参照)、SBSTTA 14 での情報文書として、および2010年以降の CBD 戦略計画開発プロセスのその他のイベントへの貢献として含めるために CBD 事務局に提出されます。その成果も、その他の MEA で使用するために、関連イニシアチブ、地域別および国別指標プロセスによってより広範囲に配布されます。

ワークショップにより、提案される指標枠組みのさらなる開発および仕上げなど、今後の追加アクティビティの奨励が期待されます。これらについては、できる限り UNEP-WCMC の 2010 BIP 事務局が監視し、2010 BIP Web サイト (www.twentyten.net) で報告いたします。

詳細については、以下宛にお問い合わせください。

Dr Matt Walpole
 UNEP-WCMC, 219c Huntingdon Road, Cambridge CB3 0DL, UK
 電子メール: matt.walpole@unep-wcmc.org